



# “リケジョ”のシゴト 知らず、触れよう

理工系分野に興味がある女子中高生・女子学生が、将来の自分をしっかりイメージして進路選択できることを応援するため、内閣府男女共同参画局が中心となって進めている「理工チャレンジ(リコチャレ)」。優秀なリケジョが活躍している旭化成もこの活動に積極的に参加している。そこで、旭化成で働く彼女たちに、リケジョを目指す女子中高生・女子学生へのアドバイスや仕事のやりがいについて聞いた。

## 女性がもっと輝けるために「リコチャレ」を応援します



旭化成株式会社 取締役会長 経団連 女性の活躍推進委員会 委員長 伊藤 一郎さん

私たち製造業は、「リケジョ」大歓迎なんです。ひとりでも多くの女子中高生に理系に進んでもらい、将来は我々の仲間になってほしい。そのためには、理系に進んだ女性が企業に就職したら、どんな仕事ができ、どんな活躍の場があるのかを実際に見てもらい、働いている女性社員の生の声を聞いてほしい。それが、私たちが「リコチャレ」を応援するねらいです。

いまは理系職には男性が多い。当社にはヘルスケア事業もあり、薬学系出身の女性社員の数は、少しずつ増えています。一方、マテリアル系の分野に進む理工系出身の女性の数は、まだまだ少ない。全国的にみても、理系学生に占める女子学生の割合は2割ほど。製造業の企業にとって、この女子の割合を増やしていくことは、喫緊の課題。だから、内閣府も経団連も「リコチャレ」を推進して、女子学生を全面的に応援しているのです。

当社の場合、新卒採用に占める女性の割合が25%に達したところ。女性社員の数は、職責者(係長)以上は500人、うち課長以上の管理職は153人(今年6月時点)。さらに2020年には、女性管理職の数を現在の2倍にする計画を進めており、「ダイバーシティーが当たり前」という世の中になりたいと考えています。

たとえば研究職は、長いスパンでテーマを設定しますから、スケジュール管理がしやすく、女性が働きやすい職種の一つではないでしょうか。工場の仕事も、いまはパネルタッチひとつで操業を管理する時代です。

“リケジョ”の活躍は、私たち企業の願い。みなさんには、女性ならではの発想を生かし、新しい社会価値をつくり出す原動力になってほしいですね。

物質の構造にまつわる情報を実験で得られるデータから引き出し、材料と物性の関係を説明することで、ものづくりのヒントを得ることが出来ます。企業の競争力強化に貢献できる、やりがいのある仕事です。

仕事と家庭を両立し成果をあげるためには、家族の協力が不可欠でした。8年前、基盤技術研究所の主任研究員に、今年からは、担当総括という立場となり、グループを効率的に運営する役割も担っています。

ほんの少し背伸びをしてあきらめずに挑戦し続けること、自分の考えを発信し、自ら実行すること。それが、理系の女性がキャリアを開拓する一番の鍵だと思います。

## 夏休み特別企画 女子高校生のための理系の職場見学会・キャリアセミナーを開催

その1 研究所で“リケジョ”に触れよう! ツアー 実施日:8月24日 訪れた場所:旭化成株式会社 富士支社 「科学・分析のシゴト」コース/「住まいのシゴト」コース

電子顕微鏡や、質量分析計など、高度な分析を行える実験装置を目の前にした女子高生たちは大興奮! ふだん研究所で働く女性社員らが機器の仕組みや操作の仕方、得られるデータの意味合いなどを目前で解説した。参加した女子高生は、「これほど大がかりな機器はなかなか見ることができません。私自身も操作させてもらって楽しかったです」と話した。



高校生に分析方法を説明する坂部さん

その2 “リケジョ”のキャリアを知らう! セミナー 実施日:8月26日 訪れた場所:旭化成株式会社 本社 「薬学・ヘルスケア系のシゴト」キャリアセミナー

創薬研究や薬の営業の第一線で活躍する女性社員2人が講師に。女子高生たちと語り合う懇親会も開催した。講師は、「男女も年齢も関係なく、会議でバンバン発言します」「職場に男性のほうがいいけれど、働きづらはありません」とリアルな職場の様子を伝えた。女子高生からは、「一つの薬の営業を任せられて、どこがゴールですか?」「就職試験の時は何社受けましたか?」などと数々の質問が飛び出した。



高校生と語り合う旭化成ファーマの大野麻美さん(左から2人目)

ほんの少し背伸びをして 挑戦を続けよう



旭化成株式会社 基盤技術研究所 坂部 輝御さん

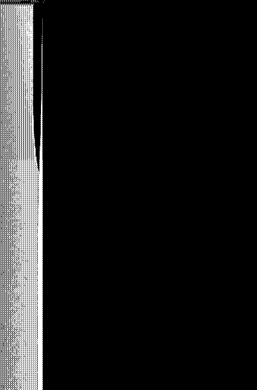
私は働いていて、女性だから不利だと思ったりはありません。どの職場に配属されても頭をおぼえてもらいやすいし、誰からも気軽に声をかけられ、得しているほうが多いです。

はじめから理系志向だったわけではありません。4歳からピアノを習っていた私は、むしろ音楽の道に進もうと思っていました。高校から理系に路線を転換し、大学は理学部化学科へ。無機化学のなかでも金属錯体をテーマにする「錯体化学」の研究室に入りました。

旭化成に入社してからは、アクリル繊維の「カシロン」をつくる工場に技術開発に従事。15年前から住環境にまつわる研究に携わっています。「ALC」という耐火性・防火性・耐震性・耐熱性に優れた建材をはじめ、私が専門としてきた無機化学が応用できる分野です。

昨年から、建材開発グループのチームリーダーを務めています。女性だからこそ、背景も年代もバラバラな職場の人たちの「触媒」になるような橋渡し役ができることもあります。「買手」の視点に近く、デザインを含めて女性の感覚を生かせることも、開発職の魅力です。

進み道を限定せず、ワクワク感を大切に



旭化成ファーマ株式会社 医薬マーケティング総部 依田 敬子さん

小学生の頃に眺めていた図鑑が私の原点です。カラフルな図解を眺めていると、時が経つのを忘れちゃいました。なりたかった職業は、弁護士、外交官、気象予報士……と幅広く、薬学部に進路を決めるまで、ずいぶん悩みました。薬に関わる道を選んだのは、人の役に立ち、影響力が大きそうだと感じたからです。

旭化成を選んだ理由は単純。薬以外にもマテリアル、住宅などあらゆるモノを生み出している面白そうだな。



### 中高生諸君。この国のいちばんの資源は、何だと思えますか。

それは、あなたの若い発想力です。可能性です。どうか自分を信じて、これからも大いに学んでください。日本が期待しています。世界が期待しています。旭化成は、考える中高生を応援します。

昨日まで世界になかったものを。 AsahiKASEI

